

記事と知識関連付け



新聞をめくって、学習内容と関わりのある記事を探る生徒たち

2年生の地理の授業で、当日の新聞が配られた。興味を持った記事を選び、理由や感想を発表するのが課題だ。サウジアラビアの国王来日の記事を選んだ班は、「脱石油」を進めるウジと、それを支援する日本の狙いを発表。新納隆教諭(40)は、石油がアジア地域に偏在し、近い将来に枯渇する恐れがあるという授業で学んだ知識と関連付けて、まとめた。

と関連する記事を扱う。新納教諭は「その日の新聞を使うことを心がけている。生徒の食いつきが違う。社会科のほか、家庭科や英語でも新聞は利用されている。」

かごしま NIE実践校

(年齢や肩書は取材当時)

新聞を広げ、記事の感想を話し合う児童

各自がまとめたコラムの感想を書く生徒たち



魚見小学校（指宿市）

多様な表現や意見学ぶ

全学年でNIEに取り組んだ。新聞になじみのない1年生は担任が朝の会で、テレビで話題になっている記事を紹介。児童の妹が掲載された南日本新聞「うぶ声」欄も示し、新聞を通して世界や地域への関心を高めた。児童107人の小規模校。多様な表現や意見に触れるツールとしても活用する。2年生は同年年の作品の視写や一部を隠した言葉当てクイズで表現を学び、6年生は同年



川辺中学校（南九州市）

考え伝える力育む

2015年度、新聞から活字に親しむ「よむのび教室」を聞くなど新聞を活用、16年度から実践校に加わった。生徒にとって新聞が身近な存在へと変わってきたという。新聞感想文コンクールへの参加や新聞投稿を促すほか、週末課題として全学年が本紙の「南風録スクラップ帳」に取り組んだ。音読のほか、書き写して感想もまとめる。3年生は活動の自己評価をふまえてコラム(辺組んだ。新聞になじみのない1年生は担任が朝の会で、テレビで話題になっている記事を紹介。児童の妹が掲載された南日本新聞「うぶ声」欄も示し、新聞を通して世界や地域への関心を高めた。児童107人の小規模校。多様な表現や意見に触れるツールとしても活用する。2年生は同年年の作品の視写や一部を隠した言葉当てクイズで表現を学び、6年生は同年

代に投稿を題材に道徳の話し合い活動に取り組んだ。実践校4年目。入学時からNIEを体験する4年生の中には、夏休みや冬休みの出来事を新聞にまとめる活動を経て、独自の学級新聞を作った児童も。NIE担当の長倉洋行教諭(41)は表現する力の高まりを感じつつ、「まだ教師が主体。児童自身が新聞を手取る手だてが必要」と課題を挙げた。(上仮屋美佳)

読めるのがいい」と話した。(見美川勝)